

# 「グランド・デザイン」の描き方

2回にわたって紹介した教育リサーチ「カリキュラム・マネジメント」に、多くの反響をいただきました。なぜ「主体的・対話的で深い学び」の実現にカリキュラム・マネジメントが必要とされるのかを振り返るとともに、多くの質問が寄せられた「グランド・デザイン」の描き方について田村 学先生にお話しいただきます。



## 田村 学 (たむら まなぶ)

國學院大學人間開発学部初等教育学科教授。新潟大学教育学部卒業後、小学校教諭などを経て、一昨年度まで文部科学省初等中等教育局視学官。生活科・総合的な学習の時間の実践、カリキュラム研究に取り組んでいる。

### カリキュラム・マネジメントが必要とされる理由

なぜ、新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」の実現のためにカリキュラム・マネジメントが必要とされるのか。それは、このシリーズでも繰り返しお話ししてきたように、今回の学習指導要領の改訂が、これからの時代に必要な資質・能力の育成を前面に打ち出しているからです。

「資質・能力」の育成がゴールとしての大きな目標になるわけですが、そのためには、一人ひとりの子どもたちに、「主体的・対話的で深い学び」をしてほしいということです。

この「主体的・対話的で深い学び」を実現するには、二つの軸が必要です。

一つはアクティブ・ラーニングの視点による授業改善(授業のイノベーション)、そしてもう一つが「カリキュラム・マネジメント」の充実です。

ではなぜ、カリキュラム・マネジメントを行うことで、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるのでしょうか。「主体的・対話的で深い学び」は資質・能力の育成に資するもので、子どもたちがそれまでに身に付けてきた知識及び技能を、積極的に「活用・発

揮」できるような授業でなくてはなりません。

自分の考えを発言したり、友達と積極的に意見交換したり、あるいは自分の考えをまとめ、文章化したり、説明したりすることを、これまで以上に活発に実施していくことが求められます。

もちろんインプットも大事ですが、意識的にアウトプットすることがより大切になってきます。

「活用・発揮」を繰り返し、知識を使えば使うほど、知識が使い勝手のいいものになる。使い勝手がいいだけではなくて、長持ちするものになっていくのです。

そういった「活用・発揮」をするためにはカリキュラムをどうデザインするかが重要なポイントになってくるのです。

前の単元で学んだことを次の単元に活用・発揮することは、もちろんこれまでも各教科の授業で行われてきました。それを教科の枠を超えて教科等横断的に活用・発揮させようということです。国語科での学びを生活科の時間で、あるいは社会科での学びを総合的な学習の時間で活用・発揮することをより積極的に行えるようになれば、子どもたちの活用・発揮のチャンスは格段に広がります。



## 「グランド・デザイン」を描く

カリキュラム・マネジメントの三つの側面には、「カリキュラム・デザイン」「PDCAサイクル」「内外リソースの活用」があり、そのなかでも教育内容の組織的配列である「カリキュラム・デザイン」が中核をなすことは本シリーズですでお話しした通りです。

単元配列表を描くことに力を入れて、いままで足りなかったところを整備していくと、いろいろなものが連動しながら、期待する方向に向かうのではないかと申し上げたのですが、今回は「グランド・デザイン」の描き方を知りたい、というご質問にお答えします。

本シリーズで触れてきた通り、カリキュラムをデザインする際には、教育目標を中心とした学校の「グランド・デザイン」をデザインする、各教科の学習内容が全体として俯瞰できる単元配列表をデザインする、一つの単元「ユニット」をデザインする、という三つの階層があります。

ご質問の「グランド・デザイン」は自校の教育目標を見つめ直し、その長期的な教育目標から短期目標を描くことで作成することができます。

当然のことながら、学校の教育目標

は、その学校の歴史や伝統、地域性、子どもたちの実態によって、長い時間をかけて検討され、共有されてきたものです。つまり、学校ごとの固有性や独自性、歴史や伝統をもった教育目標

なので、そこから、そう簡単に変えないほうが良いと、私は思っています。よくよく見つめ直した結果「変える」ことになったということもあるでしょうが、よくよく見つめ直した結果

「いまの教育目標でいいですよね」ということでも、全く問題ないと思います。大切なことは、それぞれの学校の教育目標の特徴、表現されている言葉の背景にある思いや願いに思いを馳せ、その具体的なイメージを鮮明にすることでしよう。

教育目標を見直すかどうかは議論の先にあることだと思いますが、各学校がこれまで大事にしてきたことと、今回の学習指導要領で示してある三つの柱を照らし合わせて分析し、「私たちの学校が育てたい『具体的な子ども達の姿』を描き直していく必要がある」と考えています。

オリジナルで、個性豊かな各学校の教育目標を、今回の学習指導要領で整理された「育成を目指す資質・能力の三本柱」と擦り合わせながら、育てた

「具体的な子どもの姿」を描いていることが欠かせないのです。



## マトリックス表で考える

教育目標にはいろいろなタイプがありますが、知・徳・体などに分けて示すタイプが多いのではないのでしょうか。

学校の教育目標を三つの資質・能力で「見つめ直す」ということは、知・徳・体にあたる目標を、三つの資質・能力で具体的に表現してみることです。

下の図のように例えば、知・徳・体で表現されている教育目標を、三本柱のマトリックス表で整理してみます。

3×3の9個のセルがあるわけですが、この9個にそれぞれ書き込んでいきます。すると、たくさん書けるセルと、一個も書けないセルが出てくるはずです。もちろん全部埋める必要はありません。

三本柱に均等に散らばることは少ないでしょうが、むしろそれでよいのだと思います。そこそが、各学校の教育目標の特徴だからです。

こうして「見直す」のではなくて「見つめ直す」ことによって、自校の教育目標には「こういう特徴がある」とか、「こういう傾向がある」とか、「こ

ういう強みがある」ということがわかるはずです。

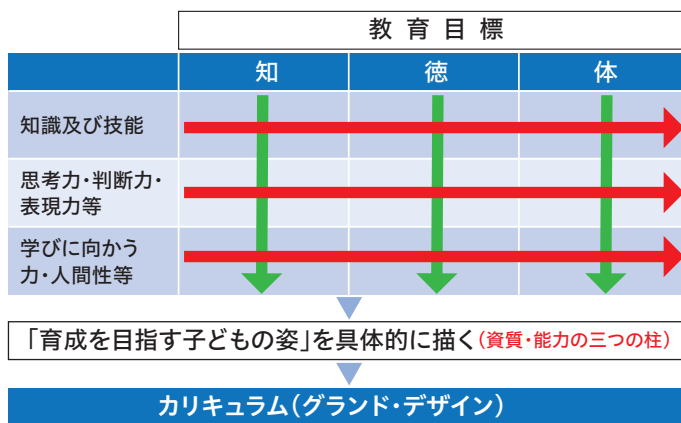
### マトリックス表に整理する

	教育目標		
	知	徳	体
知識及び技能			
思考力・判断力・表現力等			
学びに向かう力・人間性等			

まずはマトリックス表に落とし込んでみることで、自校のストロングポイント、持ち味を見つけていくことが大切です。

見つめ直す過程で、もしも気になることが出てきたとしたら、教育目標にも若干手を加えればよいのではないのでしょうか。強みを二層伸ばし、弱みを補っていけばよいのです。

このマトリックス表に文字を埋め込むことができたなら、次に、マトリックス表を三つの柱で統合的に整理していきます。



三つの柱で横串を刺せば、各学校で「育てたい子ども」の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」が具体的にイメージでき、文言として明示できるはず。



### 見直すべきは短期目標

各学校では、長期目標である教育目標の他に、「育成を目指す子どもの姿」といった2〜3年程度で掲げる目標があると思います。目の前の子どもに相応しく、短期的で、即効性を期待する子ども像を各学校で描くでしょう。

さきほどお話ししたように、長期的な教育目標は見つめ直すに留め、この「育成を目指す子どもの姿」といった短期的な目標を、三本柱で定めるべきではないか、と考えています。

この三つの柱で描いた資質・能力を土台にしながら、いわゆる「グランド・デザイン」という学校の全体計画をデザインする、ということなのです。

教育目標は見つめ直すに留め、短期目標を資質・能力の三本柱で整理し、具体的に描くということです。

今回の学習指導要領においては、全ての教科等が目標、内容ともに三つの柱で整理され、明示されています。「育成を目指す子どもの姿」も三つの柱で整えることで、両者の関係を明らかにすることができるようはります。

こうやって、教育目標の「見つめ直し」がなされ、各学校で編成する教育課程に結び付いていくわけです。

2019年3月  
発刊予定

「カリキュラム・マネジメント」の理論と実践を具体的に紹介する入門書。

「深い学び」の実現のために、管理職のみならず学級担任の先生方に向けて田村学先生が明快に解説。

A5判 ● 200 ページ(2色) ● 1,800 円+税





# てんまる

カリキュラム・  
マネジメントの  
第一歩

特許出願中

## 年間指導計画 作成機能

てんまるは、  
ぶんけいテストの付属ソフトです

教科書会社を選択するだけで、単元を自動配置します。  
実技教科や道徳の計画も簡単に作成できます。

POINT

重視したいキーワードを設定して  
単元を色分けできる!



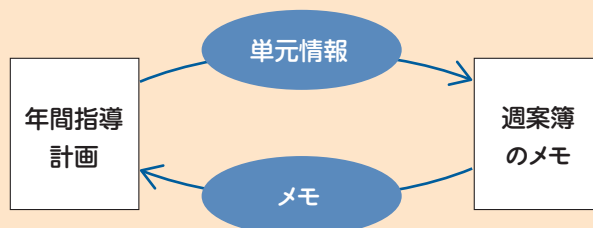
色分けを参考にして、単元を入れ換えたり時数を調整したりできます。

直感的操作で  
表を簡単に  
作れるので、忙しい中でも  
すべての先生がカリ・マネを意識できる!

POINT

年間指導計画のとおり、単元名とめあてを週案簿に取り込めます。  
週案簿のメモを年間指導計画でまとめて振り返ることができます。

2019  
新機能



POINT

日々のメモが  
カリ・マネにつながる!